

76年春の旅 鬼怒文。

大変早く、得るといふ大、三般の悲劇、釜煎に寸人の述亡

現地にふれ、改め2日中、日米戦争の時代、其、

命がけの

樺太監獄や西田信春の先達のこと、この北海道開拓と

明治政府のめざした近代化とそのときの口實ゆえに

歴史に現代、今日われわれの時代を考へて共会でした。

久し振りにお会いした人にも2々懐かしさがこぼれ上りてきました。

日中友好協会の影浦貞宏事務局長さんが「今の中国政府の物、これと中日人民の思ひは違ふ。日民同士は友好努力は大事だ」との発言も共感できました。

この「友山崎忠明さんが伊藤千代子の映画の成功、寸がけでお収。

沼田町は私の故郷です。中学生のとき片道8キロ通学したと云つてお。

足元歩に歴史を知り、毛とかりたてお収。

北又

高橋重人